

様々な営農形態に対応できる営農情報管理システム

大規模専業農家や農業生産法人等は、効率的な作業体系で生産コストの低減を図るとともに安心・安全な農産物の生産が求められています。しかし、農地や農作業の集積が進み作業受託地を含め数百ものほ場を管理することが必要となる中、栽培管理全体を把握することが困難となっています。また、トレーサビリティへの対応やH20年度から市販化された圃場毎の収穫量などが計測できる収量コンバイン等から取得される情報を活用するためには、大量の情報を確実に扱うことも求められています。そこで、個別の経営体からJA単位での地域的管理まで幅広く対応可能で、ほ場毎の基本情報と作付け・作業状況を随時記録管理する機能、合筆や分筆、二毛作等の作付けの変化に柔軟に対応できるGIS機能を備えた営農情報管理システムを開発しました。

☆ 技術の概要

1. 作付け作物・品種、作業履歴等は、ほ場毎の登録や複数ほ場への一括登録ができる。また、収量コンバインと連携して収穫情報を作業履歴に自動登録することができます。
2. 本システムは、パソコン1台に全て導入する方式、サーバを導入してネットワークを介して利用する方式を選択でき、後者では複数の利用者が情報の取得や登録を同時に行えます。
3. 営農情報は1経営体に相当する単位（ファーム）で管理され、全てのファーム情報にアクセスできる広域管理者の登録で、JA等による複数ファーム情報の一元的管理に対応できます。
4. 本システムでは、台帳に相当する「基本ほ場」と、作期に対応して更新される「作付けほ場」に分かれ、合筆、分筆、二毛作等への柔軟な対応や、次の作期への更新、前後の作付け状況の確認を容易に行うことが可能です。

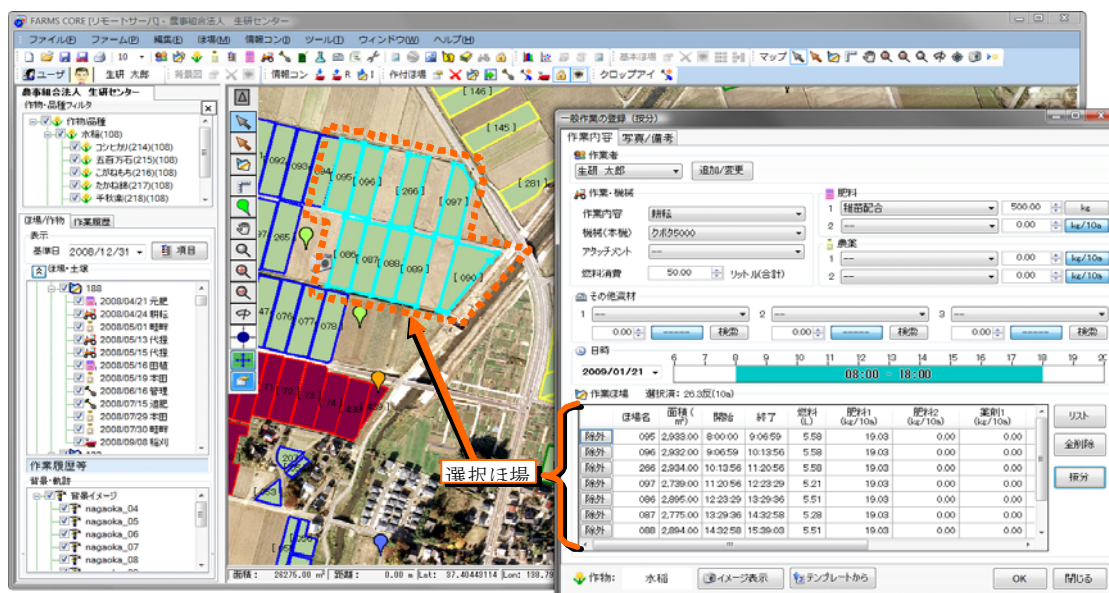


図 主プログラム上のほ場図表示と作業入力(一括)の例

☆ 活用面での留意点

1. 本システムは、試行販売が開始された収量コンバインとともに配布し利用されています。
2. 登録された情報はトレーサビリティにも活用可能です。
3. 詳細は生研センター生産システム研究部大規模機械化システム(電話 048-654-7070)にお問い合わせください。
(中央農業総合研究センター 研究管理監 二宮正士)